

# 彙 報

## 彙 報 第 一

前会長 泉 井 久 之 助

### 昭和54・55年度本会各種役員選挙結果とその確定の報告

昭和53年末より順次行なわれて来ました標記の件につき、その報告がやむなき事情により非常に遅延することになりました。

遅延の理由は、各種選挙における当選者のうち若干の方々より固い辞退の意志表明があったためですが、そこにおける特に重要な一項は次期会長選挙における第一位当選者からの固い辞意の表明でした。もしこの辞意がそのまま実現された場合、会則により54年3月末日をもって、その時点における現会長は会を代表して賁務を執行する資格を喪失し、現事務局もまた会務を遂行する規約的根拠を失い、事はただちに会の全面的解体につながることとなります。辞意の表明にはやむなき事由の伏在が察せられるといたしましても、会は極力この危機を回避する必要があります。このため会は屢次その翻意を求める傍ら、順次、そして数次に亘り選挙管理・常任および一般の委員会に、あるいは諮りあるいは賛否の表明を求め、これら各種委員会より辞退者辞意の承認を得ると共に、善後の処置に努め、ここに選挙における一般的慣習と社会通念に従い次点者擁立の方針を定め、幸に次点者の承諾を得ることができました。これに関しては、始めに戻って再選挙を施行すべき旨の意見表明も若干あらわれました。しかし一旦、全会員によって会規に則り正規・厳正に行なわれました選挙結果は客観的に尊重されるべく、当初の選挙において不正もしくは手落ちがなきかぎり、再選挙はこれを行なう理由は毫もなしと考えましたことを、特に申添えたく思います。

なをまた上記遅延の他の理由として、同一人者の各種役員への同時当選という事実も存在いたします。のみならず会則が示しますように、役種によりましては他種役員の新務ができないこともあります。これらの事情に絡んでそこに当選者の辞退があらわれました場合、会の定員規定に従ってその影響は他の諸委員会の人的構成にドミノ効果 (falling-dominoes effect) 的に波及して順次それぞれ人員の差し替えを要求し、それぞれの委員会の構成は長く浮動することをまぬがれません。その定着を得るまでの時間もまた上記遅延の原因となりましたが、以上すべてが全体として遂にいま落着を見ましたことは、同慶にたえません。

現会長は今、任期を終えるに当り、全会員各位の協力、常任委員堀井令以知氏の不断の援助、さらに本会事務局主務者として局を統轄しつつ局員諸氏と共に会務遂行に尽力されました岩本忠氏に対し、深甚の謝意を表したく思います。

なお次回言語学会大会は、本会会員・東京都立大学教授奥津敬一郎氏と、同大学との懇篤な御厚志により、別記のごとく本年6月2・3の両日に開かれることになりましたことも、併せてご報告いたします。

### 第3回会長・会計監査委員・委員の同時選挙

○投票総数 189 有効投票数 179

○会長選挙 176 有効投票数 167

最高点：柴田 武 54票 (次点：西田龍雄 21票)

(次々点：徳永康元 14票)

※最高点者 柴田 武氏の会長就任辞退(上記前会長の報告を参照)により、次点者西田龍雄氏が繰上当選となる。

○会計監査委員選挙 投票数 174×2 有効投票数 284

当選者：田村 すす子 21票, 堀井 令以知 14票

(次点：北村 甫 12票; 次々点：国広 哲弥 11票)

○委員選挙

当選者(五十音順)：

1) 北海道(2名) 池上 二良, 塩谷 饒

2) 東北(2名) 加藤 正信, 佐藤喜代治

- 3) 関 東 (33名) 飯豊 毅一, 池上 嘉彦, 石綿 敏雄, 井上 和子  
(ICU)  
 井上 史雄, 梅田 博之, 大江 孝男, 大野 普, 大東百合子  
 奥津敬一郎, 風間喜代三, 亀井 孝, 川本 茂男, 北村 甫  
 木村 彰一, 日下部文夫, 国広 哲弥, W.A.  
グロージャース, 江 実  
 佐藤 純一, 柴田 武, 下宮 忠雄, 田中 克彦, 築島 裕  
 辻 直四郎, 徳永 康元, 野元 菊雄, 橋本萬太郎, 林 大  
 平山 輝男, 三根谷 徹, 三宅 鴻, 矢島 文夫
- 4) 中 部 (8名) 打田佐太郎, 上野 善道, 小泉 保, 佐藤 茂  
 清水 克正, 野村 正良, 松本 克己, 吉町 義雄
- 5) 近 畿 (19名) 池上 禎造, 岩本 忠, 長田 夏樹, 岸本 通夫  
 北嶋 静江, 五島 忠久, 阪倉 篤義, 崎山 理, 杉藤美代子  
 塚本 勲, 徳川 宗賢, 林 栄一, 蛭沼 寿雄, 広戸 惇  
 前田 富祺, 村山 七郎, 山口 秀夫, 山末 一夫, 和田 祐一
- 6) 中国・四国 (4名) 関本 至, 竹内 和夫, 藤原 与一, 吉川 守
- 7) 九州・沖縄 (3名) 大江 三郎, 早田 輝洋, 松田 伊作

関東地区委員は、田村すす子氏が会計監査委員に当選されましたので、次点者が繰上げ当選になりました。

なお、田村すす子氏は昭和53・54年度常任委員であります。今回の会計監査委員当選により、今回の常任委員選挙のB地区次点者大江孝男氏が代って繰上げ当選となるべきところ（選挙規則14条および選挙細則D, 3）、同氏は辞退のため、上記選挙規則および細則により（補充は次点者まで）、欠員のままととなります。（に補充常任委員の任期は前任者任期の残存期間）。

近畿地区委員は西田龍雄氏が会長に、堀井令以知氏が会計監査委員に当選となりましたので、次点者と次々点者が繰上げ当選となりました。

#### 昭和54・55年度常任委員と編集委員長選挙

上記選挙は、選挙細則により新委員会の郵送投票（54年3月19日付締切）で行なわれ、3月24日開票、次の方々が当選し受諾されました。

## ○常任委員選挙 投票者数 64

当選者：A大地区（北海道・東北地区） 塩谷 饒

B大地区（関東地区） 奥津敬一郎 大東百合子 野元 菊雄

C大地区（中部・近畿地区） 徳川 宗賢

B大地区の常任委員，田村すす子氏が先の選挙で会計監査委員に移られましたので，野元菊雄氏の繰上当選となりました。任期は前者の残任期間（昭和55年3月31日まで）。

## ○編集委員長選挙 投票者数 64

当選者： 北村 甫

昭和53年度 日本語学会決算表

自 昭和53年4月 至 昭和54年3月

(単位 円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
B 会 費	3,412,748	1 刊 行 費	1,628,180
C 雑 誌 売 上	286,950	2 編 集 費	116,220
D 文 部 省 補 助 金	530,000	3 発 送 費	265,280
E 預 金 利 息	13,767	4 大 会 関 係 費	563,780
F 雑 収 入	100	5 委 員 会 費	24,240
		6 常 任 委 員 会 費	349,438
		7 九 学 会 連 合 会 費	33,200
		8 C I P L 負 担 金	42,461
		9 選 挙 関 係 費	851,390
		10 通 信 費	140,918
		11 事 務 費	291,765
		12 事 務 所 賃 借 料	60,000
		13 事 務 局 職 員 謝 金	660,035
		16 雑 費	106,423
収入合計	4,243,565	支出合計	5,133,331
A 前期繰越	2,628,004	15 選挙関係等準備積立金	600,000
		17 次期繰越	1,138,238
合 計	6,871,569	合 計	6,871,569

○支出内訳

1. 刊 行 費	第 74 号	818,340
	第 75 号	809,840
3. 発 送 費	(4~11月) 第73号まで	19,245
	(12~3月) 第74号他	128,902
	(54年4月) 第75号他	117,133
4. 大 会 関 係 費	第76回大会	285,170
	第77回大会	278,610
5. 委 員 会 費	第 1 回	6,330
	第 2 回	17,910
6. 常 任 委 員 会 費	第 1 回	120,790
	第 2 回	228,648
9. 選 挙 関 係 費	名 簿 印 刷 費	371,000
	そ の 他 印 刷 費	35,670
	物 品 費	13,390
	関 係 委 員 会 経 費	97,980
	郵 送 料	239,970
	手 伝 謝 金	43,200
	結 果 報 告 印 刷 郵 送 料	50,180

## 彙報 第二

会長 西田 龍雄

## 昭和54年度第1回常任委員会

日時：4月28日（土）午後2時～5時

場所：京都大学文学部教官控室

出席者：西田龍雄，奥津敬一郎，国広哲弥，小泉保，野元菊雄，松田伊作

欠席者：大東百合子，塩谷 饒，徳川宗賢（委任状あり）

議事：(1)第78回大会について。

プログラム（研究発表者及び司会者）を決定し，案内状作成の準備をした。

(2)昭和54・55年度選挙管理委員の選挙について。

同委員選挙の実施について協議した。

(3)九学会連合会費（分担金）の増額について。

3万円から5万円に増額したい要望があり，これについて協議し了承した。

(4)昭和54年度予算案の作成。

今年度の予算案を検討し，別表のように縮小案とすることを了承した。（昭和53年度最終決算報告は，前事務局から未着のため，その検討は次回委員会において行うことにした。）

(5)第79回大会の会場について。

今年度秋期大会の会場候補校を検討し，天理大学を第1候補として交渉を始めることを了承した。

(6)寄贈図書について。

本学会あて寄贈図書は，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所に寄贈することが前回委員会で承認されたが，書類上保管となっている点，受入れ側から照会があり（『言語研究』75号 p.112 には

「保管」とされている), 改めて寄贈であることを確認した。

昭和54年度第1回委員会

日 時：6月2日(土) 午前11時～午後1時

場 所：東京都立大学第1会議室

出席者：西田龍雄，池上二良，井上史雄，岩本 忠，打田佐太郎，上野善道，  
奥津敬一郎，大東百合子，亀井 孝，岸本通夫，北嶋静江，北村 甫，  
日下部文夫，国広哲弥，小泉 保，江 実，下宮忠雄，杉藤美代子，  
関本 至，竹内和夫，塚本 勲，徳川宗賢，徳永康元，野村正良，野元  
菊雄，早田輝洋，平山輝男，前田富祺，松田伊作，松本克己，村山七郎，  
矢島文夫，山末一夫，吉町義雄(以上34名)

オブザーバー：服部四郎，泉井久之助(以上副会長)，田村すす子，堀井令以知  
(以上会計監査委員)

欠席者(委任状あり)：飯豊毅一，池上禎造，池上嘉彦，石綿敏雄，井上和子，  
梅田博之，大江三郎，長田夏樹，加藤正信，風間喜代三，W.A.グロー  
タース，五島忠久，阪倉篤義，崎山 理，佐藤喜代治，佐藤 茂，佐藤  
純一，塩谷 饒，柴田 武，清水克正，築島 裕，辻直四郎，林 栄一，  
林 大，蛭沼寿雄，広戸 惇，藤原与一，三根谷徹，山口秀夫，吉川  
守，和田祐一(以上31名)

欠席者(委任状なし)：大江孝男，大野 晋，川本茂雄，木村彰一，田中克彦，  
橋本萬太郎，三宅 鴻(以上7名)

報 告：(1)第1回常任委員会の報告(常任委員会議事参照)。

(2)編集委員長の報告。

編集委員長より，編集委員の依頼等についての報告があった。

議 事：(1)昭和54・55年度選挙管理委員の選挙。上記の選挙を行った結果，以下  
の8氏が当選した：岩本 忠，岸本通夫，阪倉篤義，崎山 理，杉藤  
美代子，徳川宗賢，蛭沼寿雄，堀井令以知。任期は2年。

(2)昭和54・55年度東洋学研究連絡委員会委員の選挙。

上記の選挙を行った結果，村山七郎氏が当選した。任期は2年。

## (3)昭和54・55年度語学文学研究連絡委員会委員の選挙。

上記の選挙を行った結果、柴田武氏が当選した。任期は2年。

## (4)前年度の決算報告の承認。

前学会事務局から提出された決算報告 (p. 103 参照) を検討し承認した。

## (5)昭和54年度予算案の決定。

常任委員会において決定された予算案を、文部省刊行助成金が53万円から60万円に増額されることが内定したため、一部を訂正して承認した (別表参照)。

## (6)第79回大会会場の決定。

本年度秋期大会を10月13・14日の両日、天理大学において開催することを決定した。

## (7)寄贈図書について。

前回委員会の決定に基づき、『言語研究』75号 p. 112 に受贈図書の保管先とあるのを寄贈先に改めることを決定した。常任委員会議事(6)を参照。

なお、選挙管理委員の重任は、今回は会長が前回と同じ地域から選出された事情によりやむをえないが、三選は避けるべきであるとの意見が出され、この件を委員会申し合わせとすることで了承された。選挙管理委員の重任の問題と、他の役職にある人が選挙管理委員を兼任することの可否を、今後常任委員会において検討していくことになった。

また、雑誌交換の新規申し出については、常任委員会及び事務局にその採否を一任することが申し合わされた。

## 第78回大会

期 日：昭和54年6月2日(土)・3日(日)

会 場：東京都立大学B棟100号室

第1日(6月2日)

開催校代表あいさつ：

都立大学人文学部長 戸塚七郎



開会の辞：

大 島 一 郎

公開講演（午後2時～5時30分）：

平 山 輝 男 「言語島 奈良十津川方言の性格」

会長就任講演：

西 田 龍 雄 「チベット・ビルマ諸語と言語学」

第2日（6月3日）

研究発表（午前10時～12時）：

(1) 「日本語基礎動詞語根の起源」

藤 原 明

(2) 「ヒンディー語関係詞化に関する考察」

今 井 隆

(3) 「ゴート語 preverb ga- の機能について」

吉 田 和 彦

定例会員総会（午後1時～1時30分）

研究発表（午後1時30分～4時30分）：

(4) 「舌音歯音と重紐問題—中古中国語の五音—」

松 尾 良 樹

(5) 「契丹文字解読の新段階」

小 沢 重 男

(6) 「発語以前の認識と言語表現」

氏 家 洋 子

(7) 「言語と文化の相関をさぐって」

都 竹 通年雄

閉会の辞：

奥 津 敬一郎

## 別表 昭和54年度 日本言語学会予算表

自 昭和54年4月 至 昭和55年3月

(単位円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
A 前期繰越	1,738,238	1 刊行費	2,070,000
B 会費	3,000,000	2 編集費	120,000
C 雑誌売上	100,000	3 発送費	300,000
D 文部省補助金	600,000	4 大会関係費	500,000
E 預金利息	20,000	5 委員会費	50,000
		6 常任委員会費	350,000
		7 九学会連合会費	50,000
		8 C I P L負担金	50,000
		9 選挙関係費	100,000
		10 通信費	150,000
		11 事務費	190,000
		12 事務所賃借料	60,000
		13 事務局職員謝金	350,000
		14 予備費	500,000
		15 選挙関係等準備積立金	500,000
		16 雑費	118,238
計	5,458,238	計	5,458,238

- 受贈図書リスト (昭和54年4月1日～昭和54年6月30日)
- 宇部短期大学学術報告 No.14 (香川学園宇部短期大学 1979, 1)
- 学術情報委員会 (O委員会) 報告 (学術情報システム開発委員会 1979, 3)
- 各地方言親族語彙の言語社会学的研究(1) (国立国語研究所 1979, 1)
- カナノヒカリ Nos. 680-682 (カナモジカイ 1979, 4-6)
- 計量国語学 Vol. 11, No.8 (計量国語学会 1979, 3)
- 言語文化研究 V (大阪大学言語文化部 1979, 3)
- 考古学雑誌 Vol.64, No.4 (日本考古学会 1979, 3)
- 語学研究 No.18 (拓殖大学語学研究所 1979, 3)
- 国語学 第116集 (国語学会 1979, 3)
- 国語学研究 No.18 (東北大学文学部「国語学研究」刊行会 1978, 12)
- 国立国語研究所三十年のあゆみ (国立国語研究所 1978, 10)
- 小林理学研究所報告 Vol.19, No.1 (小林理学研究所 1979, 4)
- 史苑 Vol.39, No.2 (立教大学史学会 1979, 3)
- 児童英語教育 第2号 (日本児童英語振興会 1978, 12)
- 常用漢字表案 (文化庁文化部国語課 1979, 3)
- 常用漢字表案 (中間答申) (国語審議会 1979, 3)
- 大城山 (伝説集) (朝鮮平壤, 外国出版社 1979)
- 新刊紹介依頼ノ為  
逐次刊行物目録 S. 51年版 (国立国会図書館 1978, 12)
- 朝鮮学報 第90輯 (朝鮮学会 1979, 1)
- 独仏文学 1979年1号 (山口大学独仏文学研究会 1979, 1)
- 日本学術会議月報 Vol.20, Nos.3-5 (日本学術会議広報委員会1979, 3-5)
- 日本民族学 No.122 (日本民族学会 1979, 3)
- 日本民族学会会員名簿 (日本民族学会 1979, 3)
- ノートルダム清心女子大学紀要  
(国語・国文学編) (ノートルダム清心女子大学 1979, 3)
- 文学研究 第76輯 (九州大学文学部 1979, 3)

- 放送文化 1979年6月号 (日本放送出版協会 1979, 6)  
 民族学研究 Vol.43, No.4 (日本民族学会 1979, 3)  
 民族語文 '79 1-2 (中国社会科学出版社 1979)  
 月刊 みんぱく '79年4月号~6月号 (国立民族学博物館 1979, 4-5)

*Acta Asiatica* (Bulletin of the Institute of Eastern Culture) 36 (東方学会, 1979)

*Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, Vol. XLII, Part 1  
(University of London, 1979)

*Current Contents of Academic Journals in Japan 1977* (学術誌刊行センター, 1979)

WATERMAN, John T.: *Leibniz and Ludolf on Things Linguistics*, Linguistics Vol.88 (University of California Publications, 1977)

*Literature Music Fine Art*, German Studies Section III Vol. XII, No. 1  
(Tübingen, 1979)

Мовознавство 73 (No.1) 74 (No.2) (Наукова Думка, Київ, 1979)

*Naš Reče : Ústav pro Jazyk Český*. ročník 62, číslo I, 1979 (Academia nakladatelství Československé akademie věd, 1979)

*Philologia* No.11 (三重大学外国語研究会, 1979)

Русская литература, No.1 (Ленинград, 1979)

Русский язык в школе, Nos. 1 ; 2 (Просвещение Москва, 1979)

*Slovo a Slovensnost*, ročník XL, číslo 1 (Československá Akademie věd, 1979)

*Studia Phonologica* XII (京都大学音声科学総合研究部会, 1978)

GAMBLE, G. : *Wikchamni Grammar*, Linguistics Vol. 89 (University of California Press, 1978)

Вестник Ленинградского университета (История-Язык-Литература), No.2  
Ленинград, 1979)